

## ベトナムでの口唇口蓋裂患者への医療援助・技術指導及び学術調査

場所：ベトナム、ニンビン省、ニンビン総合病院

期日：平成 20 年 1 月 12 日から平成 20 年 1 月 27 日

出張者：

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯顎口腔機能再建外科学 教授 菅原利夫、  
岡山大学医学部・歯学部附属病院口腔外科(再建系) 講師 三島克章、  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯顎口腔機能再建外科学 助教 山田朋弘

口唇口蓋裂は外表にみられる先天異常の中で最も多い疾患の一つで、本邦においては出生児約 600 人に一人の割合で発生するといわれている。本疾患では口腔、顎顔面の成長・発育段階に応じて専門的治療を統合して、適切に計画され、そして実施されること、すなわち一貫治療の重要性が認識されている。従って、われわれ口腔外科にとって極めて重要な疾患の一つであり、また我が国では治療技術の向上により、形態および機能において、高度なレベルにまで回復できるようになってきた。しかしながら、発展途上国では国情などもあり、適切な治療が受けられずに放置されている子供が多く、また医療担当者側も本疾患に関する専門的知識を得る機会が少ない状況に置かれている。このような中で、日本口唇口蓋裂協会は設立以来、東南アジアを中心に 20 カ国において医療援助活動を展開してきた。

平成 10 年からベトナム、ニンビン省のニンビン総合病院への事業が展開され、一昨年の平成 17 年度まで外務省の国際開発協力関係民間公益団体補助事業として援助が実施された。われわれは、岡山大学、大阪大学、山口大学を中心とする医療チームとして平成 10 年より参加している。平成 10 年度から 17 年度までの間で、209 人の口唇口蓋裂無料手術を実施し、そして、口腔外科、麻酔科、看護師他合計 29 名の現地スタッフに対し、口唇口蓋裂治療の技術指導・技術移転を実施した。一昨年の平成 17 年度には、それまで取り組んできた「現地スタッフへの口唇口蓋裂治療の技術指導・技術移転」に対して評価を行った。その結果、我々の技術指導の内容がおおむね良好に現地スタッフへと移転され、そして口唇口蓋裂治療が実践されていることがわかった。

そこで、今回はこれまでに移転した口唇口蓋裂治療の技術のレベルをチェックし、現地スタッフへフィードバックすることを目的とし、さらに今回の調査結果をもとに、現在まで行ってきた「現地スタッフへの口唇口蓋裂治療の技術指導・技術移転」を長期にわたる観点から再評価することを目的とする。